



いじめゼロへ～子どもたちの主体的な活動を通して～

副校長 久保田 謙

現代社会において、学校内でのいじめ問題は深刻な課題として存在しています。いじめは、かわった全ての児童の心身に深刻な影響を及ぼし、その後の人生にも大きな影を落とすことがあります。そのため、発生した際に迅速かつ適切に対処することはもちろん、それ以上にいじめを未然に防ぐ為の取組が求められます。その際、大人が全てを主導するのではなく、子供たち自身が主体的にこの問題に向き合うことが重要だと考えています。これは、子供たちの人権意識を高め、将来的な社会全体の well-being (ウェルビーイング) につながるものです。

そのためにはまず、子供たち一人一人が他者の人権を尊重する意識を高めることが重要です。5月の全校集会では、人権擁護委員の方が、「自分をみつめ、まわりもみつめ」という白金小学校の合言葉は、まさに人権尊重を表しているというお話をしてくださいました。学校では道徳やその他の教育活動全般を通して、児童の人権意識を育てていきます。また、本校が ICT 機器を活用しながら進めている個別最適な学びの推進も、人権尊重の気持ちを育てる手立ての一つです。一人一人が違うことを尊重し、それぞれの良さを生かしながら社会(学習・学級)を創り上げていく経験を積みさせていきます。

6月からはさらに、いじめゼロに向けて、子供たち自身が主体的に取り組む力を育てるための活動(ハッピープロジェクト)を各学年で始めていきます。各学年でどんな活動を行うのか、これからまたホームページや X でも発信していきたいと考えています。

いじめ問題の解決は、子供たちの well-being に直結する重要な課題です。子供たちが自らの力で問題を解決する能力を身に付け、人権を尊重する社会の一員として成長していくことは、将来的な社会全体の well-being にも繋がります。私たち大人は、そのための環境とサポートを提供し、子供たちの成長を見守り続けることが求められます。白金小学校はいじめのない、全ての子供たちが安心して学び、成長できる学校を目指しています。今後も保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



水泳指導について

体育主任 佐々木 得人

今年度は、6月10日(月)から水泳学習を始めます。水泳は体全体を使った運動で、全身の筋力を鍛え、心肺機能を高めることができます。白金小学校では、以下の3つを目標として水泳の学習を行います。

- ①水に慣れ、全身運動としての水泳を通して、健康な心身の育成をはかる。
- ②自己の能力に適した課題をもって水泳に取り組み、技能の向上をはかる。
- ③水泳学習の諸注意をよく理解し、安全に水泳ができる態度を養う。

水泳は、児童が心待ちにしている学習の一つです。

しかし、油断をすると生命に関わる大きな事故につながってしまいます。学校では、万が一に備えて、高輪消防署の方に来ていただき、心肺蘇生法の教員研修を行います。安全・安心な水泳学習となるように努めてまいります。

白金小学校
X毎日更新しています。
学校 HP から入れます。